

## 楽しむことが周りを変える

福智町のイベントに携わる中で、まずは自分が楽しむことを大切にしてきました。自分自身が楽しむことで、相手や周囲の雰囲気もさらに和やかになることをここで感じる事ができました。



九州大学【福岡】  
薬学部 3年  
轟木 亮太さん  
(福岡市出身)

## 子どもたちの最高の笑顔に感動

福智町は川や森があり、青森にいるようで懐かしく感じました。夢は文部科学省で教育に携わること。企画担当したサマースクールで子どもたちの純粋な笑顔が見れて最高でした。



中央大学【東京】  
文学部 1年  
三浦 菜月さん  
(青森県出身)

7月31日から7日間、草場地区集会所に滞在した大学生たち。「自分の時間やお金、いろいろなものを犠牲にして頑張っている学生を応援したい」と口をそろえる地域の人々。期間中、食事を提供するなど積極的にサポートしてきました。大学生たちはクラウドファンディングでこのイベントの寄付を募り、自分たちで資金を調達。集まった寄付金で実現させ、町や将来のことを真剣に考え、町の活性化に引き合ってくれています。



▶図書館ふくちのちの夏イベント「わくわく科楽フェスティバル」で、竹からハガキを作るワークショップを開催。



▶アイラブフクチフェスタでは、浴衣の装いを競う「浴衣 de ナイト」に出演。「タケマツリ」の魅力を発信しました。



◀ 青少年育成町民会議主催の「少年のバス」に指導員として九大生2人が参加。子どもたちの視野を広げました。



◀ 「福智スイーツ大茶会」での地元産品をPRする「グルメストリート」でスタッフとして運営に携わりました。

### 広がる学生とのつながり

この町を知らなかった学生たちと町が繋がったのは、これまでではあり得ない、まさに奇跡的なことでした。さらにこのプロジェクト以外でも、町の行事で学生たちが力を発揮。福智町と大学生とのつながりは、子どもたちの体験や教育面を中心に、効果を生み出しています。

## 故郷を知りまた好きになる

生まれてからずっと草場に住んでいます。大学生の「この町にあるものは、すごく魅力的」という言葉に今まで身近で気付かず、あるのが当たり前だった自分の町の良さを発見できました。



草場地区公民館  
館長  
八隅 太郎さん  
(福智町教育委員)

## 人を呼ぶめぐり逢いが未来へつながる

「草場地区で築いたつながりが町全体のつながりへと発展していけば素敵ですね」と語るイベント発起人の日高将博さん。「学生の力と町のニーズをつなぐことが自分の役割。大学生の若い発想や力を町に加えて、新しい『変化』をもたらせば…」このイベントはそのひとつのきっかけです」と力を込めました。ふるさとを離れ、今は東京に住んでいますが、目を閉じれば福智山や彦山川のあるふるさとの情景が浮かんでくると思います。この夏福智で実現した「方城山神盆踊り大会」と「バンブースペースプロジェクト」。若者たちの熱い思いが人と人を結びつけ、人を呼び、また新たな人とのめぐり逢いをもたらしています。人を動かす人間力が新たな地域資源を生む… 壮大な若者たちのチャレンジはこれからも続いていきます。

# 竹林を変えた 大学生と 学び遊ぶ。

プロジェクトの2日目、東京の大学生たちが福智でサマースクールを開校。忘れられない夏の一日が子どもたちの胸に残りました。

## 笑い声が里山に響く

大学生によるサマースクールが8月5日にバンブースペースで開校され、福智の小中学生約20人が参加。竹の灯籠やけん玉づくり、スイカ割り、そうめん流しなど各プログラムを企画運営し、子どもたちの思い出に残る夏の一日を過ごしました。参加費はすべて無料。子どもたちの輝くような表情を見て「地区に子どもの笑い声が帰ってきた」と草場の人たちは目を細めました。

中高生の進路相談もあり、勉強や将来の悩みに現役大学生がアドバイス。大学生と直接対話し、心通わせることで視野がさらに広がった様子でした。



## 大学生×子どもたち×体験

中高生は「未来」、小学生は「自然」をテーマにしたサマースクールのワークショップに草場地区と生力地区の子どもたち約20人が参加しました。



日本財団勤務  
日高 将博さん  
(東京在住・福智町出身)

来年に  
向けての  
振り返り

中高生の  
進路相談  
もあった

最高の  
夏の思い出

バーハウス  
作成中

会場は  
大学生が  
デザイン!